

学校名：中央区立有馬小学校 所在地：中央区日本橋蛸殻町 2-10-23

校長名：小林 一輝 児童数 675人 学級数22 教員数39人 職員数28人

1 重点目標の達成状況及び取組状況

重点目標1 「わかった」「楽しい」を基本とし、高い学習意欲をもち、自分から探究する児童を育成する。

評価項目：①考えること、話すこと、聞いてもらえることの楽しさを感じられる場面を意図的に設定した授業を構築する。

②少人数指導やステップアップ教室の実施などにより算数科教育を充実させる。

評価指標：①各種学力調査の質問紙調査、管理職による授業観察、及び年に2回、全教員が学習指導案を作成し、OJTによる授業公開を行う。

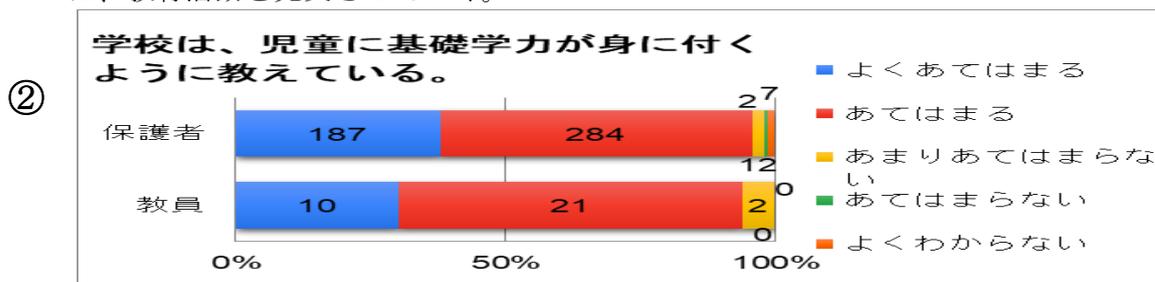
②計画的な算数少人数指導の実施。ステップアップ教室を年間30回以上実施する。

③児童アンケートで、「授業がわかる、楽しい」という項目の肯定的な回答を90%以上にする。

達成状況：①については、全教員が学習指導案を作成し、7月と12月に授業公開を実施した。積極的に授業参観をする教員が多く、授業改善に役立てることができた。また、小グループによるOJTを実施し、授業づくりや児童への対応等、喫緊の指導に役立つ研修を実施し、教員の資質向上に繋がった。

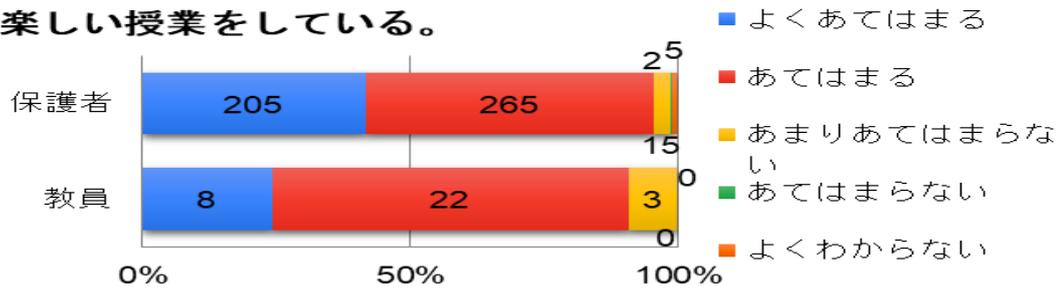
②については、算数少人数担当が中心となり、学習進度別授業で、個に応じた指導を実施した。学習内容の確実な定着のために、個人面談期間中の放課後や夏季休業期間に補習「ステップアップ教室」を24回実施した。目標の回数には届かなかったが、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができた。算数で東京都が推奨している「東京ベーシック・ドリル」の診断シート、練習シートを有効に活用し、第4学年までの学習内容の確実な定着を図った。知識・技能の定着については、他の教科においても重点として取り組み続けており、「基礎学力の定着」「わかりやすい授業の展開」共に約98%の保護者が達成しているとの回答を得ている。また、教員の意識としても達成できていると感じていることが分かる。今後も基礎学力の確実な定着を目指し、学校全体で取り組んでいく。

③については、約94%の児童が、「授業がわかる、楽しい」と回答している。本年度は、各教科等において、ICTを効果的に活用した授業改善に取り組むと共に、特別活動で学んできた話し合いにおける合意形成の工夫等、対話的で深い学びを推進することができた。その結果、約90%以上の保護者や教員が、指導方法の工夫・改善が達成できたと実感していることがアンケート結果から分かる。今後も本校の研究を基に、教育活動を充実させていく。



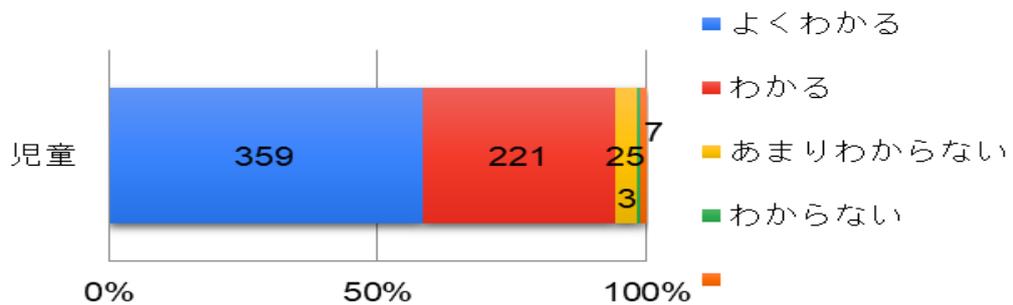
③

学校は、学習内容が分かりやすく楽しい授業をしている。



③

授業の内容は、よく分かりますか。



重点目標 2 「自分だけでなく、みんなが楽しい」を基本とし、人のために考え、行動することのできる児童を育成する。

評価項目：①保幼小連携や、有馬エンジョイタイムなどの交流活動の充実を通して、全教員が、活動ありきではなく「活動中の心情や行動のふりかえり・次への行動目標を立てること」に重点を置き、児童の成長につなげる。

②他の人が喜んでくれることを自分の喜びとすることができる場面の意図的な設定をする。

評価指標：①保護者アンケートで「児童は明るく生き生きと学校生活を送っている」という項目の肯定的な回答を90%以上にする。

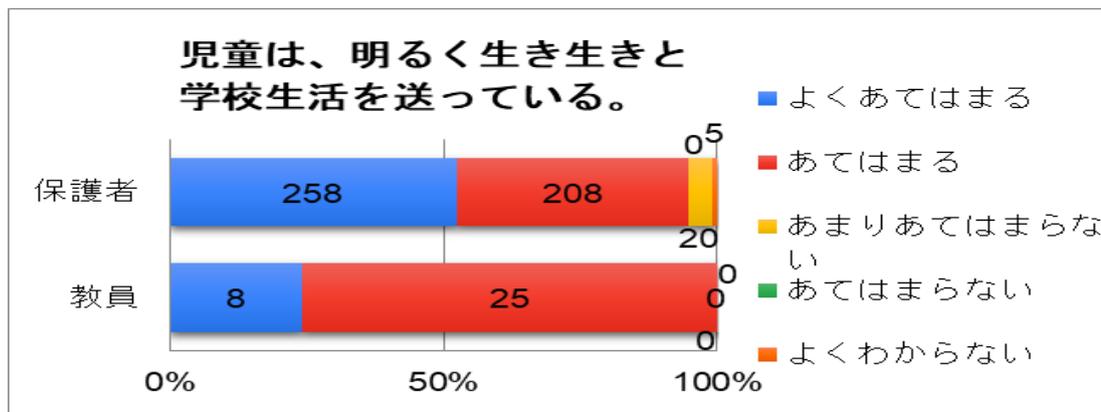
②児童アンケートで「人のために行動することができた」という項目の肯定的な回答を90%以上にする。

達成状況：①については、保幼小連携で、本校で授業を2回観ていただいた。また、有馬エンジョイタイムの縦割り班活動、ありまっ子まつりでの、幼小連携など、昨年度に比べても充実した交流ができた。その結果、約98%の保護者から肯定的な回答を得ることができた。

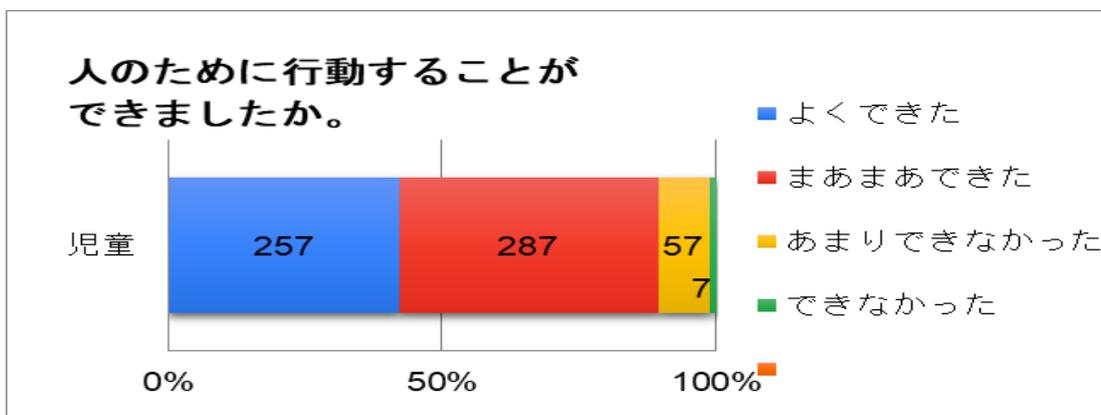
②については、約90%の児童が、人のために行動ができたと答えている。全校朝会の校長講話で、「優しい人が一番えらい人」や「いじめは絶対にダメ」等、年間を通して繰り返し伝え続けてきたことで、児童同士に友達を大切に、友達のために行動する意識が定着してきたと考える。また、朝のあいさつ運動でも、当番でなくてもボランティアとしてみんなのために挨拶をするなど積極的な姿勢が生まれてきた。ペア学年でのあいさつ運動でも、お互いに良いところを見つけたり、励まし合ったりして、

取り組むというような相乗効果が生まれてきている。あいさつについては、学校、家庭、地域の連携を更に強化し、これからも粘り強く取り組んでいく。

①



②



重点目標 3 規則正しい生活習慣を身に付け、心身の成長、発達につながる体力を向上させる。

評価項目：①遅刻の回数を保護者に伝達するなど、規則正しい生活習慣を学校と家庭が連携して取り組んでいくようにする。

②「生涯スポーツ」という言葉の通り、日常的に身体を動かし、自分自身の体力向上に取り組んでいく児童を育成する。

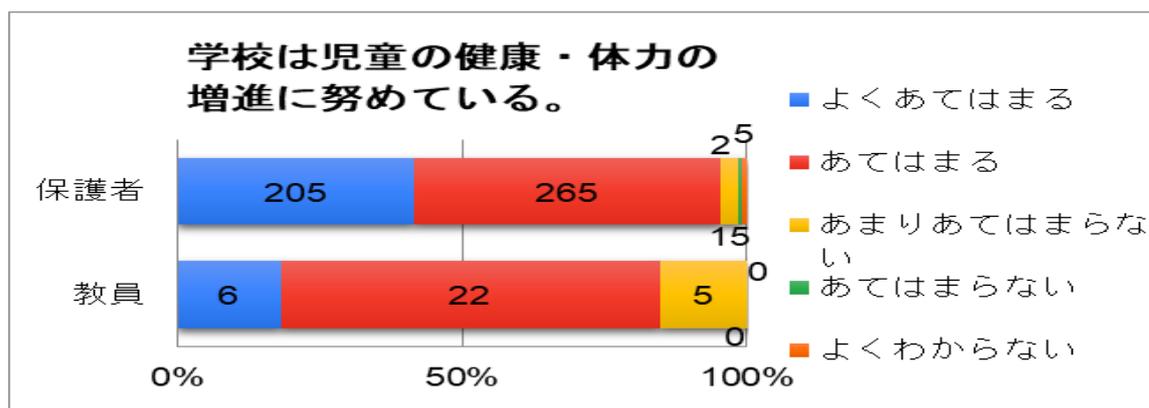
評価指標：①保護者アンケートで「児童の健康・体力の増進に努めている」という項目の肯定的な回答を90%以上にする。

②児童のアンケートで「自分から体を動かして遊んだり運動したりしていますか」という項目の肯定的な回答を90%以上にする。

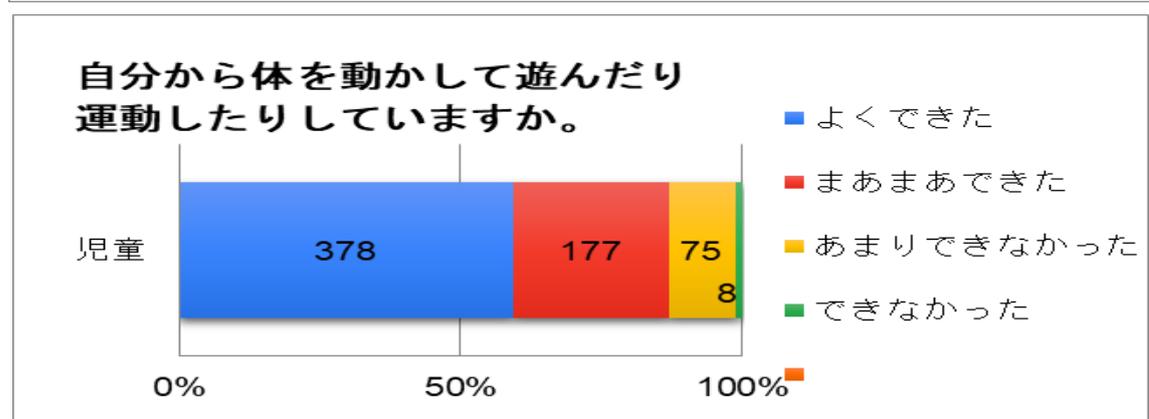
達成状況：①については、昨年より多い、約96%の保護者が肯定的な回答をしている。「ありまんピック」や「ARIMA RUN」を公開し、児童が全力で取り組む姿を見てもらうことができた。

②については、児童の約87%が肯定的な回答であり、他の項目と比較し低めである。校庭で元気に遊ぶ児童と室内で過ごす児童の二極化が見られたが、3学期になって児童が中心となって休み時間の校庭の使い方を話し合った。その結果、ボール遊びを復活させることができたので、外に出て元気に遊ぶ児童が非常に増えた。また、運動に対して苦手意識のある児童へ体を動かすことの楽しさを体育の授業を通して、教員が教えていく等の工夫が必要である。

①



②



2 今後の改善方策

- 引き続き、考えること、話すこと、聞いてもらえることの楽しさを感じられる場面を意図的に設定した授業を構築していく。また、ICT機器の効果的な活用について指導方法を工夫していくが、ICT機器ありきの授業ではなく、あくまでもよりよい授業を目指していく上での必要に応じたツールという認識で授業改善に取り組んでいく。そして、全教科、領域を通して、児童がより主体的・協働的に取り組むことができるように教員の授業力の向上を図り、毎時間の授業を充実させ、児童にとって「分かった、楽しい」と言える授業となるようにしていく。
- 保幼小連携や、有馬エンジョイタイム、交流給食、ありまっ子まつり等の交流活動をさらに充実させ、児童が振り返りをする場を必ず設けることで、全教員が、活動ありきではなく「活動中の心情や行動のふりかえり・次への行動目標を立てること」に重点を置き、児童の成長につなげていく。
- あいさつについて、朝のあいさつ運動だけでなく、あいさつが日常化するように、学校全体で問題意識をもって取り組んでいく。また、教職員・保護者・地域も含めて大人が模範となるようなあいさつの環境をつくっていけるように、周知徹底を図る。
- 委員会活動等で、児童が主体となって、学校生活を豊かにしようとする意識、風土が生まれてきた。引き続き、本校の特色でもある、「特別活動」の充実を図るために、児童のアイデアを生かし、教員と共によりよい有馬小を創っていく。